

領 収 証

本郷 淳一 様

令和 2 年 4 月 14 日

¥ 34,650.-

但し 本郷通信印刷代
上記の金額正に領収いたしました

現 金	
小切手	
約 手	
相 殺	

収 入

印 紙

有限会社 スター印刷社

栃木県佐野市七軒町220-1
TEL (0283) 22-1311
FAX (0283) 24-4930

領 収 書

令和 2 年 7 月 30 日

本郷 淳一 議員

金 額
(消費税込)

380円

佐野市議会 訪問型議会報告会費用分担金として、上記の金額を領収しました。
(令和2年7月11日開催)

佐野市議会報告会運営会委員長 井川 克彦



領 収 書	
平成 2 年 10 月 26 日	
本郷 淳一 様	
¥ 34,650 -	
上記の金額正に領収致しました 但し 本紙通信印刷代	
総合印刷・印刷紙器・写真製版	
豊文堂印刷紙工株式会社	
本社 栃木県佐野市栄町3-1 ☎ 0283 (22) 1470 代 Fax 0283 (22) 8421	

本郷通信

<http://www.komei.or.jp/km/sano-hongou-junichi/>

発行者 本郷 淳一

住所 佐野市大橋町3173-5

TEL 0283-23-2100

FAX 0283-23-2100

E-mail : j-hongo@sea.plala.or.jp

(二 挨 拶)

皆様には日頃より、温かい御支援を頂き心より御礼申し上げます。令和2年度の一般会計予算は、485億5千万円で合併後2番目となる規模となりました。台風第19号の復旧・復興を最重点事項とし、人口減少社会の克服や地方創生に挑戦する予算で、その成果が大いに期待されます。また、新型コロナウイルスの影響を全市一丸となって払拭することが大変重要です。



一般質問



令和2年度予算審査特別委員会模様

天明鑄物の商標登録支援

■天明鋳物の商標登録
天明鋳物のまちづくりや、鋳物事業者の活動を守るには、商標登録が不可欠との指摘がある。

小野勉産業文化部長も「天明鋳物を商法登録することはブランド力を高め、事業者にとっても有益。市として支援すべき喫緊の課題」と強調。行政が出願することはできないため、「まずは特許庁の出張説明会を要請し、関係者が共通認識を持つことから登録に向けての具体的な取り組みを推めたい」と述べた。本郷氏が質問した。

新聞記事

2020(令和2年) 3月6日(金曜日)

下 野 新 聞

(台風第19号の復旧・復興)



《河川激甚災害対策特別緊急事業》

- 1.区間：約3km（佐野地区衛生施設組合上流～菊沢川放水路まで）
- 2.期間：おおむね5年（2019年度～2024年度）
- 3.費用：57億円（関連事業含め総額約62億円）
- 4.内容：☆河道掘削（川底を掘り下げる）
☆引き堤（川幅を広げる）
☆護岸工事（コンクリートブロックを設置）
☆橋の架け替え（大橋・中橋）

《台風第19号の復旧・復興》

最後の1件まで災害ボランティアセンター開設を要請！



秋山川の堆積土除去工事



ボランティアによる私道側溝清掃

【河道掘削及び護岸工事】

- ・護岸を強固にするために河川側の護岸にコンクリートブロックを設置する。
- ・決壊箇所は本復旧が完了するまでの間、堤防全体をコンクリートブロックで保護する。

【越水箇所の堤防強化】

- ・中央自動車教習所付近からJR両毛線踏切までの堤防は、高くすることなく計画流量を確保。
- ・2段構えの護岸のうち河川側にある低い護岸の一部を撤去。30年に一度の降雨想定。

【避難所関連】

- ・今後、避難所の増設や避難方法の在り方を再考する。また、民間事業所と協定締結に向け交渉中、今年の出水期までに調整し、公表できるように進めたい。

【復旧・復興計画基本方針】

- ・国及び県に対する要請は6件。市長が直接県庁や内閣府、国土交通省などに足を運んだ。その結果、激甚災害指定の閣議決定と秋山川の河川激甚災害対策特別緊急事業が採択された。
- ・住民には対応困難で公費投入できない復旧復興は要望に添えるような制度設計を検討。

《天明鋳物のまちづくり》

天明鋳物の商標登録は喫緊の課題！



【第2次佐野市天明鋳物のまちづくり推進計画】

- ・イベント開催や情報発信の積み重ねで、天明鋳物が人々の目に留まる機会が増えている。
- ・マスコミに取り上げられることでさらにPR効果となり、着実に人々に浸透してきている。
- ・2人の地域おこし協力隊員の活動は、情報発信の強化と交流を促進し、天明鋳物のさらなるPRにつながっている。
- ・高岡市デザイン・工芸センターのような伝統工芸品の保存、承継、育成等幅広い視点を持つ施設は、本市の天明鋳物のまちづくりを進める中で必要であり、重要な案件であると認識している。

【天明鋳物研究者との連携強化】

- ・今後、助言を頂いてきた研究者との連携強化の他、県立博物館の研究機関とも連携する。また、将来専門的な研究者の配置や学術的な取り組みを担う地域おこし協力隊員の採用も視野に入れていきたい。

《復旧・復興を最重点事項》

令和2年度一般会計予算

《総額485億5千万円》

全議員で構成された予算審査特別委員会が4日間にわたり開会され、延べ27名の委員が質疑し、一般会計予算等全7議案が原案のとおり可決されました。また、最終日の本会議においても全議案が可決されました。

《主な復旧・復興事業》

・復興推進事業	26万円
・被災企業等支援事業	7,350万円
・被災住宅応急修理費事業	1億1,900万円
・被災住宅再建等支援事業	500万円
・林道災害復旧事業	1,690万円
・市道等災害復旧事業	1億2,100万円
・橋りょう災害復旧事業	3億3,750万円
・普通河川等災害復旧事業	1億3,555万円

《主な新規事業》

・北関東沿線開発推進事業	203万円
・天明鋳物のまちづくり推進事業	11万円
・佐藤さんゆかりの地聖地化プロジェクト事業	1,979万円
・佐野暮らしとラーメン店創業支援事業	3,448万円
・風しん予防接種等事業	3,149万円
・新生児聴覚検査事業	386万円
・洪水・土砂災害ハザードマップ更新事業	158万円
・総合防災訓練事業	392万円
・普通河川等改良事業	3,500万円
・生活路線バス運行支援事業	1億5,908万円
・行政情報等テレビデータ放送配信事業	110万円

(ご 挨拶)

皆様には日頃より、温かい御支援を頂き心より御礼申し上げます。令和元年度決算は、令和元年東日本台風の復旧・復興及び新型コロナウイルス感染症対策の影響を大きく受けた決算となりましたが、健全財政が堅持されました。今後、新型コロナウイルス感染症の影響による収税減は避けられません。「新たな日常」へ向けた対策と、事業の見直しが大変重要です。



一 般 質 問



開 発 想 定 エ リ ア

国道50号沿線開発で予算

■国道50号沿線の開発
産業団地の整備や観光施設の開設を軸に進めている。同構想。市は、昨年度から開発候補地の基礎調査や若手職員20人によるプロジェクトチームの設置などに取り組んできた。岡部正英市長は「雇用の創出や定住の促進、財政基盤の強化など、多くの効果を市にもたらす」と期待を寄せ、「候補地の調査結果などを踏まえ、来年度予算に基本的な計画策定のための予算を計上する」と明らかにした。本郷氏が質問した。

令和2年第5回定例会

《国道50号沿線の開発》

- ・西側エリアについては、比較的整備が進めやすい農用地区域外を第1段階の整備区域として想定し、庁内で検討を進めるとともに、栃木県に対して開発の可能性など協議を重ねてきた。
- ・西側エリアの一部においては、民間企業による開発計画が進んでいる状況もあり、事業化に向け庁内各課との調整をさらに進めたい。



《台風の復旧・復興》

【エトワール天神付近の雨水幹線等の浸水対策】

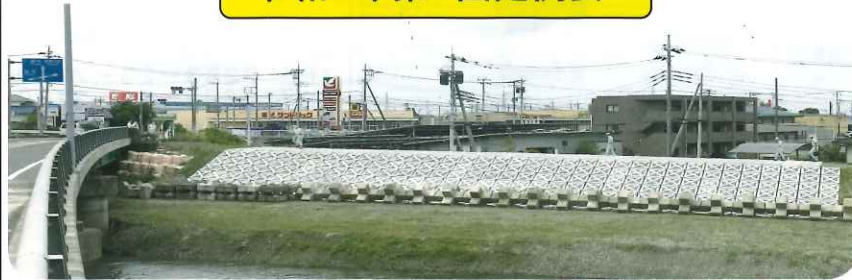
- ・浸水被害の原因は、秋山川からの越水及び雨水幹線の水門を閉じたために起きた内水氾濫と認識している。
- ・エトワール天神付近の雨水幹線は、雨季の前に点検を、大町付近の水路等は、河川のパトロールに合わせ点検を実施。必要に応じて堆積土の撤去などを実施する。
- ・排水ポンプの設置については、水門が閉じて発生する内水氾濫の対策としては有効であると考え。今後、課題もあるが、河川激甚災害特別緊急事業の河川改修に合わせた対策を検討していきたい。



【令和元年東日本台風対応の検証】

- ・庁内各部門で行った検証内容は、今年度中に地域防災計画や水防計画、新たに作成予定の受援・応援計画等に反映するとともに、全ての部門が連携し、防災対応をしてまいりたい。
- ・市民の皆様の防災意識を高めることや町会や自主防災組織との連携など、地域防災力を高めることも大変重要。これからも様々な機会を通して推進していく。

令和2年第5回定例会



寄付金活用し支援制度

■台風19号の寄付金活用
昨年10月の台風19号の復旧・復興に向けて、全
国から寄せられた寄付金は、全
昨年度、2360件で計9
610万円に上ったとい
う。
岡部市長はこれらの寄付
金を活用し、「災害ボラン
ティアセンター」「崩落土
砂等撤去」「橋梁災害復
旧」の三つの支援制度を創
設したことを明らかにし
た。被災者の生活再建を
図るため、それぞれ経費の
一部を支援するもので、「今
後も台風19号の対応を十分
に検証し、被災者が早期に
生活を再建できるように支
援制度を検討していきたい
」と述べた。本郷氏が質
問した。

1.災害ボランティアセンター支援事業

- ・災害ボランティア活動において、重機を使用して行う活動での燃料費、機械損料等の活動実費相当を支援。

2.崩落土砂等撤去支援事業

- ・公共事業による災害復旧事業の対象とならない民地等における崩落土砂等の撤去を、民地等の所有者等自らが事業者に依頼して行った場合に補助金を交付。

3.橋梁災害復旧支援事業

- ・台風第19号により損傷または滅失した個人が設置する橋梁の機能を回復するための工事を業者に依頼して行った場合に、その経費の一部を支援。

新聞記事

2020(令和2年) 6月13日(土曜日)

下野新聞

《秋山川改修》

- ・河道掘削及び護岸工事は、海陸橋上下流付近や国道50号上下流付近の工事を発注済み。
- ・引堤や橋の架け替えは、現在は計画策定に必要な測量調査などの業務を実施中。
- ・用地買収を必要としない箇所は、今後も河道掘削や護岸工事の追加を行う。用地買収を必要とする区間は計画の詳細が決まり次第、本年秋頃に地元説明会を行う。

《民間事業者との災害協定》

- ・一時避難所として立体駐車場や屋上駐車場などを有している民間事業者3社と施設等の提供に関し協議をしている。イオン佐野新都市店様とは、既に協定締結済み、佐野プレミアムアウトレット様とは、今月中に協定締結予定。残り1社については、現在詳細を調整中。
- ・町会によっては、町会内にある安全な寺社や事業者と個別に一時避難に関する覚書などを締結している。

令和元年度決算

全議員で構成された決算審査特別委員会が、3日間にわたり開会されました。延べ28名の委員が質疑し、全9議案が原案のとおり認定されました。また、最終日の本会議においても全議案が認定されました。

《一般会計》()は対前年度増減

- ・予算現額 608億2,439万円 (117億7,367万円)
- ・歳入決算額 540億7,443万円 (60億5,542万円)
- ・歳出決算額 498億4,229万円 (42億4,452万円)
- ・実質収支額 27億4,788万円 (7億1,605万円)

《特別会計》※8事業合計

- ・予算現額 301億7,059万円 (△3億3,910万円)
- ・歳入決算額 293億4,001万円 (△6億1,734万円)
- ・歳出決算額 286億5,211万円 (△7億1,314万円)
- ・実質収支額 6億8,390万円 (1億0,345万円)

《企業会計》

【水道事業会計】

- ・経常利益 1億9,318万円 (△5,975万円)
- ・当年度純利益 2億0,443万円 (△6,103万円)